広報
さめがわ

昭和51年
8月号
No. 272
編集兼発行
鮫川村総務課
協町佐藤印刷所



村人を戒めた尊い道ばたの文化財

ふるさとを見直す運動の一環として、鮫川村婦人会は今年の事業に「目で見る村政」の集いを独自に計画して、８月１日にこれを実施しました。

この日は約60名の会員が参加し、２台のバスに分乗して、村の東南地域の施設や文化財などを視察しました。

渡瀬区では渡瀬村救荒修祭記の石碑について石田村長から解読説明をききました。

この石碑は今から 193年前天明の大凶作で餓死した人々のなきがらを収め、後世の村人を戒めた貴重な文化財で、二本松霞ケ城の戒石銘にも劣らぬ銘文であるといわれています

⊙ １日　交通事故ゼロ、歩行者優先の日

⊙ 行政区単位交通事故防止コンクール実施中
（期間７月１日～８月３１日）

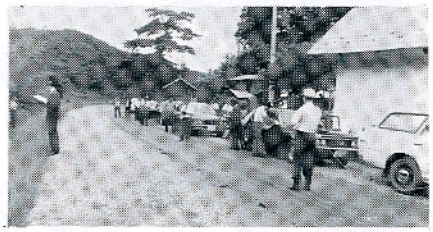
⊙ 第３日曜日は『家庭の日』

今月の人口
（８月１日 現在）

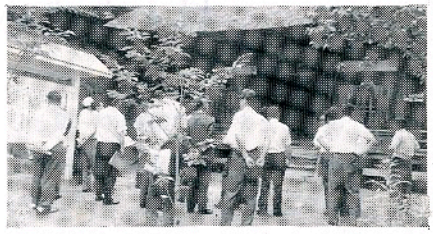
人　口	5,897	(+18)
男	2,974	(+ 7)
女	2,923	(+11)
世　帯	1,164	(− 1)

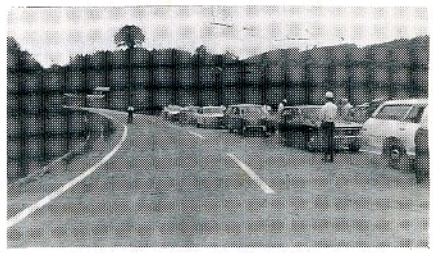
村議会議員の村内各種事業調査


国道３４９号線の舗装・広畑


国道の規格に拡巾改良・蕨の草


国庫補助で有蓋の防火水槽


県の重文薬師堂の屋根替工事


県道を国道なみに改良・真坂前

村政の歩み（16）

ふるさとを見直す運動

村長　石田　卯子八

自分たちの毎日住んでいる郷土を、いろいろな角度から見直すことは、明日への発展のために大変重要なことですが、その機会がないと容易にできないことであります。

わが村では先に「目で見る村政の会」という企画で、主として納税組長さんの参加を得て、六月二七日村の行政などを見る会を開きました。

この会では区長組長さんなど一二九名が五台のバスに分乗して村内予定のコースを廻りました。

計画では村内の日常生活圏を中心に、村の施設の状況や、産業や経済の動き、埋れた文化財などの視察を目ざしたものですが各生活圏とも中心の学校の施設、生活道路の整備状況などに関心が集まりました。

特にこれまであまり改良の手が届かなかった赤坂東野、青生野区域の村道が、国道３４９号線に昇格指定され、国道規格の改良工事が初められた現場や、国道２８９号線が全線舗装され、待望の阿武隈山系開発事業が着工された青生野区の発展ぶりなど一行の目を驚かすものがありました。

村の文化財として、これまではあまり一般の関心をよばなかった渡瀬村救荒修祭記の石碑は、このたびの視察の日程に入り、説明をきいて初めて天候災害を戒めた先人の心にふれる思いを深くした人も多かったようです。

また富田の東光寺では県から重要文化財に指定されている薬師如来立像、金剛力士立像を拝観させて貰い、現存するものでは村で一番古いと思われる鎌倉時代六百数十年前の仏教文化に直に接することができました。

これに続いて、鮫川村婦人会が同じ趣旨の会を計画され、これは八月一日の日曜を利用して実施されました。会員はバス二台に分乗し、このたびは主として村の南部区域、赤坂東野、青生野、渡瀬、富田の各区を廻りました。

葉貫、青生野など村内であっても初めて見る人たちもあり、興味深い行事であったと思います。

このような企画が、青少年層その他の各年令層、また各職域層などによって計画され、実行されることが、ふるさとを新しい視点から見直す機会をつくりこれからの発展に望ましい作用をもたらすものと期待するものであります。

おめでた

七月

西　鈴木由佳里　父鈴木　新市
鍬木田国島　敦志　父国島　義麿
新　宿大河内　努　父大河内正男
青生野山形美智子　父山形　春男
田苗下蛭田　和彦　父蛭田　勝二
滝　須藤　美行　父須藤美喜男
押　野緑川　昌子　父緑川　勝美
真　坂田子　聡　父田子　照美
官　沢矢吹　幸恵　父矢吹　秋男
大　塩山本　淳子　父山本　登
西野内関根　紀子　父関根　正
本　坂水野　竜司　父水野　富雄
吉　合斉藤　隆幸　父斉藤　芳信
名　下須藤なつ子　父須藤　一

おくやみ

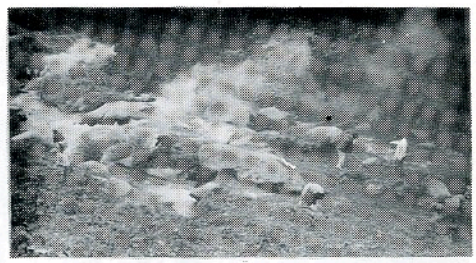
七月

石　井中川西俊一76才中川西一男
押　野関根　兵司80才関根　章雄
前　沼岡部酒造蔵86才岡部キセノ
名　下須藤なつ子0才須藤　金一

自然を守ろう

みどりの山・きれいな川……

今年の河川清掃日は、7月4日と定められ全村民総出で川をきれいにする作業が一斉に行われました。



景勝地　強滝地内は役場職員一同で土曜日の午後を利用して実施しました。

また、7月31日には、商工会青年部の皆さんの奉仕作業がありました。



崩れ落ちた土手の補修作業を行う水口組合の皆さん。

国保税

今年は一戸平均四七、〇〇〇円

今年の国保税は、医療費の値上りなどで、前年度に比較すると一戸平均約二〇%の引上げになります。

また、国保税の最高課税限度額は、前年の一二万円から一五万円に引上げられました。

国保税の一、二期分は、前年の所得がきまらないため、前年度の税額の四〇%を暫定税額として納付いただいておりましたが、所得申告の結果がまとまり、第三期分からは改正された按分率（税率）で納税額が決定されます。

また、所得の低い世帯については、減税されることになっており次のような世帯に適用されます。

① 前年の所得金額が一九万円以下の世帯（六割減税）

② 前年の所得金額が、世帯主を除く被保険者の数×一四万円＋一九万円以下の世帯（四割減税）

なお、昭和五一年度改正された按分率（税率）は次のとおりです

所得割（前年の所得額）	資産割（本年度の固定資産税額）	均等割（被保険者1人当り）	平等割（1世帯当り）
2.75%	37.85%	3,970円	7,930円

減税該当世帯（減税額）	区分	均等割	平等割
	6割減税世帯	1,968円	4,014円
	4割減税世帯	1,312円	2,676円

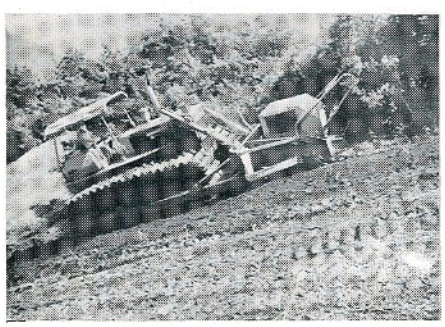
阿武隈山系開発事業進む

阿武隈山系開発事業は、わが村と塙町が、阿武隈南部区域として指定され、畜産の振興を中心に農家所得の増大をめざして進行中です。

そのための事業は、草地の造成五七五ha、道路の開設三三路線二二km、畜舎その他施設の建設、農用機械の導入など、畜産基地建設の事業を行うもので、総事業費は三五億六千万円を予定しています。

事業の実施は、昭和五〇年度から五ケ年間にわたり、農用地開発公団によって進められ、昨年は、幹線道路世々麦から鹿角平間一、〇七〇m、支線道路戸草牧場から東野牧野間一、〇五二mが開設されました。

今年は草地造成九〇ha、道路開設三、〇八〇m、牧柵その他農用施設が計画されており、現在それぞれ工事が進められております。



牧野つくりに新偉力登場！

阿武隈山系開発事業は農用地開発公団によって着工され、幹・支線の道路新設工事も二年目に入り今年は東野預託牧場つくりに強力な刈払機が登場して偉力を発揮しています。

この機械によると雑草や雑潅木などを一挙になぎ倒して細かに砕き、表土に攪拌するもので、簡易草地の造成に大きく能率をあげることができます。

正しく使って楽しい花火

花火遊びの注意

◎ 水を用意しましょう

◎ 花火に書いてある遊び方を良く読んで必ず守りましょう。

◎ 花火を人や家に向けたり、燃えやすい物のある場所では遊ばないこと。

◎ 風の強い時は、花火遊びをしないこと。

◎ 吹出しや打上げ花火は、途中で火が消えても筒をのぞかないこと。

◎ 花火をポケットに入れないこと。

⊙ たくさんの花火に一度に火をつけないこと。

◎ 花火をほぐして遊んだりしないこと。

花火遊びには大人がついていて正しい使い方を指導し、火災を起したりケガをしないよう注意して下さい。

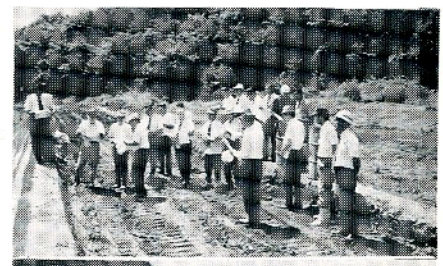
（白河消防署鮫川出張所）

県大会出場決る

渡瀬バレーチーム

村大会で優勝、準優勝した壮年ソフトボール（五〇才以上）と家庭バレーボールチームは、七月二五日塙町で開かれた郡大会に出場敢闘した結果、バレーの部で渡瀬チームが準優勝となり、県大会に出場がきまりました。

役場の山岳会員が飯豊連峰縦走に成功！





矢祭町議会の議員さん全員は阿武隈山系開発事業の一環として行われる東白川4町村一部事務組合の乾草供給センター（鹿角平牧野）と預託牧場（戸草東野）予定地を7月26日熱心に視察されました。

飯豊連峰は福島、新潟、山形の三県境にそびえ立つ二、〇〇〇m級の高山が連る連峰で、気象が変りやすく、万年雪が雪渓をなし、道が険阻で登山者泣かせの山である。古来信仰の山、女人禁制の山とされ、殊に連峰の縦走はわが村では成功した人がなかったようである。

体力増強と意志の鍛練を目的として役場の有志でつくっている山岳会は、今年この困難な縦走登山を計画し、飯豊本山二、一〇五m～御西岳二、〇一二m～天狗岳一、九七〇m～烏帽子岳二、〇一七mを踏破し、石転び沢大雪渓の走破に成功。山形県側に無事下山した。七月二三日～七月二六日



成功した会員名。高坂幸男、鷲野谷武志、舟木利次、斉須寛一、鈴木和則、金沢満、高坂修一、森洋、白坂節子、鈴木まさ子

推進員の見た
南郷村のトマト栽培・その他

村の農業、生活改良推進員は七月一九、二〇日の二日間、南会津郡南郷村のトマト栽培、同郡伊南村のコミュニティーセンターを視察研修しました。

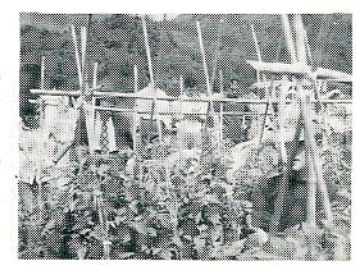
南郷村は、南会津郡の東部に位し、標高は四八〇m、冬は二mの雪が積る積雪地帯ですが、トマト栽培期間の気候は本村とよく似ています。

南郷トマトは着色、日持ちが良いため、京浜市場で高値で取引され、昨年は反収一五〇万円の粗収入を上げました。また稲作転換で水田に栽培し、水稲とトマトの輪作により連作障害を克服し、産地として名をあげています。

視察団一行は、若くして南郷村の中核的農業者である、山内一之さんの圃場を見学しました。

圃場では、南郷農業改良普及所の須藤普及員や山内さんのほか、同行された東白川農業改良普及所の水野主任改良普及員からも、鮫川のトマトと比較しながら説明がありました。

圃場見学のあと、昭和五〇年度稲作転換特別対策事業で建設した南郷村農協の共同選果場を見学し



南郷村のトマト栽培を見学する視察団の一行

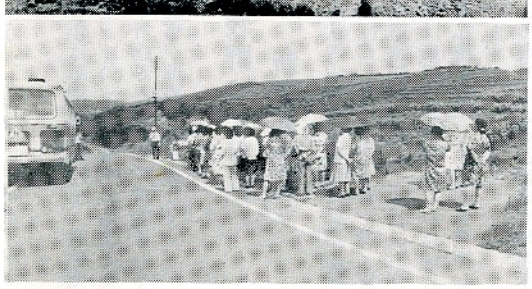
ました。七月に初出荷され、今年は一日最高一万五千ケース出荷される計画とのことです。

南郷村のとなりの伊南村ではコミュニティーセンターを見学しました。建物の規模、内容や運営等については直接馬場伊南村長さんから説明をきくことができ大変有意義な研修でした。

婦人会主催の「目で見る村政」の集い。写真は国道349号線峠の草地内の改良工事と、国道289号線から青生野集団桑園を見る会員の皆さん。

⇩







中野長生会の皆さんは村の景勝地強滝の美観を将来にわたって保存すると共に、多くの人々に親んで貰うため七月二〇日遊歩道の清掃作業を奉仕され、尊い汗を流しました。